



豊後大野市小中一貫教育校緒方学園緒方中学校 学校だより

青雲の大志

令和6年11月27日

NO.66 文責 校長 内海真理子

【学校教育目標】 自他を尊重し、論理的な思考力と豊かな表現力で、粘り強く課題解決を図る生徒の育成



繫(きずな)を確かめ合って—豊後大野市小中合同音楽祭—

11月20日(水)豊後大野市小中合同音楽祭がエイトピアおおので開催されました。9月からSONG TIMEで練習してきた「友～旅立ちの時」(作詞作曲 北川悠仁)を丁寧に歌いあげました。あるお母さんからは、「文化祭の時の歌声もよかったけれど、あれからまた、うまくなっている!」というお声をいただきました。また、先日の竹田教育事務所訪問の際には、安部所長が、「隣に座っていた議員さんが、『指先まで表情がある指揮が素晴らしい。時間をかけて練習してきたのでしょう』と褒めていました」と伝えてくださいました。以下、生徒の振り返りを紹介します。

◇合唱の取組を振り返ると、準備の真剣さや頑張り度は良かった。でも集合や姿勢、態度には少し悪いところがあり、やる気のなさを大いに感じたこともあった。

音楽祭当日、自分自身はリラックスして、**ただ真っすぐ全員と合唱するという気持ちだけをもって、失敗やミスも考えずに頑張れた。**全校のみんなは、一番のやる気と真剣さで出来ていたので、その点では、どの学校よりも気持ちが出せていた。

(指揮者 9年 木本 陽さん)

◇僕は、8年のパートリーダーになれて良かったです。文化祭で忙しいこともありましたが、**先輩たちの手際の良さがすごい**と思いました。その裏には、放課後まで残っての打ち合わせがあったと思います。

音楽祭当日、僕は緊張もあまりせずに伸び伸びと歌うことができました。そして、羽田先生から意識するように言われていたところも意識することができました。みんなもポイントを押さえて歌っていました。伸びがあって、一人ひとりの声がよく聞こえたので、**歌っていて気持ちよさそう**でした。

(8年 佐藤 瑚珀さん)

◇最初の方の練習では集中していない人や、真面目に歌っていない人もいて、文化祭と音楽祭が不安だったけど、本番の合唱は今までで一番良いものになっていて感じました。**帰りの会の時に学年で歌っている姿も**あって、良い合唱にしようという気持ちが伝わってきました。

音楽祭当日、自分自身はいつもより声が小さくなってしまったけど、他のパートとのハモリはしっかりできたと思います。強弱や感情を込める部分を意識して歌うことができました。全校のみんなは、練習で気が緩んでいた人たちも当日は真剣に歌っていたと思います。**全パートのハーモニーが綺麗だと思える合唱**でした。**みんなの気持ちが一つになった合唱**だったと思います。(9年 弓 琴音さん)

◇合唱の取組の良かったところは、みんなで協力して歌えたことです。反省点は、本番前、体育館で練習する時に少しザワついていて、あまり練習にならなかったことです。**いいと思った人は宮崎悠希さん**です。**合唱リーダーとして頑張る姿が、とてもかっこよかったです。**

本番は、私自身は今までで一番丁寧に歌えました。**他のアルトの人の声も聞きながら**合わせて歌うことができました。音程がむずかしいところも出来ました。みんなも気合が入っていていい歌を作り上げようとしていてとても良かったです。

(7年 阿南 心美さん)

**練習は本番のように
本番は練習のように**

次の合唱でも、
受験勉強でも